

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090700038		
法人名	久建産業株式会社		
事業所名	グループホーム・アリス		
所在地	群馬県館林市羽附町699番地		
自己評価作成日	平成29年3月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成29年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人が望む生活を支える専門職として関わる事が出来るよう努めております。認知症という病気が原因で不安を抱えているという視点のみならず、その人の性格傾向やその人らしさにも配慮したケアの実践を行っています。根拠を明確にしたケアプランが全職員に周知し実践できるよう努めております。ケアプランに関しては、根拠を明確にした作成ができるよう努めております。併設している小規模多機能型居宅介護への行き来や、合同での行事を通して、外出が困難な方でもグループホーム以外の交流の場を設けられるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者、介護支援専門員、職員が一体となり、「その人が何を望んでいるか」「その人の思い」などを日々のケアの中で把握して、利用者本位のケアに取り組んでいる。職員からの意見で、地域資源を活用した研修会を開催するなど、職員提案での勉強会が企画されている。今回の自己評価においても、全職員一人ひとりが自己評価を記載することにより、ケアサービスの振り返りに取り組んでいる。そうしたなか、事業所全体でケアサービス向上のための自発的努力に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人を知り望む生活を支える」という理念を共有しケアの実践を行っている。現在新人職員多く、新人職員については理念の指導を行っているところです。	介護場面における理念の反映についてミーティングや定例会議で話し合い、理念とその実践のあり方について共有を図っている。また、理念を実践につなげるために、日々のケアの中で管理者が気づいたときには、即時に指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣組に加入し、地域の祭りや廃品回収等に参加している。イベント等で近隣の商店を利用したり、アリスで開催している交流会に参加していただき、地域の方との交流を図っている。	自治会に加入しており、区民の一員として区費の支払い、回覧板の閲覧等、地域住民としての取り組みを実践している。地区の歴史的な祭り(神社のお祭り)に参加したり、隣組が事業所のお祭りに参加したりなど、文化的な行事を中心に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やアリスで開催している交流会を通して、地域の方へ認知症やその介護について発信し理解を深めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	アリスの活動内容を外部へ発信することだけでなく、外部の方からの意見を取り入れ、より良いサービスの提供が出来るよう努めている。ほぼ毎回ご家族の参加もあり、意見を頂けている。	区長・区長代理・民生委員・家族代表・市役所・地域包括支援センターが出席している。会議参加者からの意見で、近隣住民との関わり、利用者の緊急時対応としての取り組み等について話し合わせ、近隣住民へのお祭りの案内配布、AEDの設置が実践化された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政(地域密着型サービス)担当者と連絡や相談を行い協力関係を築いている。	日頃から市役所へ出向き、困難事例の報告や対応の相談を行っている。インフルエンザ発生の際は市役所に報告し、対応等について指示を受けた。地域包括支援センターの講習会の案内をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一般的な日常生活に順じて日常は自由な活動ができるよう施錠は行っておらず、夜間帯は防犯のため施錠を実施しています。身体拘束をしないケアを努めています。	研修会を企画し、身体拘束に関する情報提供と学習の機会をつくり、各職員の身体拘束についての理解の向上とあるべき実践への適応を試みている。日中は、玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で虐待につき理解する機会をつくり、お互いが注意しあえる環境をつくり防止に努めている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員にまでは教育が行き届いてはいないが、成年後見制度を利用している利用者があるため、職員にその都度情報を周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	詳細な内容も踏まえ説明を行い、理解、納得をしていただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時にコミュニケーションを図ったり、運営推進会議へ参加していただき会議の中で意見をいただいている。その中から運営に反映できるような内容は実践できるようにしている。	各職員が、日頃から面会の家族に声をかけて、日常の状況を伝え、加えてその話し合いの際に家族からの意見や要望を聞いている。家族からの意見で「居室の室温を上げるべき」などについては、随時対応している。運営推進会議に出席した家族からの意見では、事業所内にAEDを設置した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や個人面談の場をつくり、意見の聞き取りを行っている。	年に数回の全体会議や個人面談で、職員の意見を聞いている。提案を受けて研修会企画、情報管理のためにホール内に背の高いカウンター設置、危険な手すりの撤去、風呂場の排水の改善などが行われている。	会議を設定し、運営に関する情報を共有し、より活発な議論の場を作りたいことを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境が実践できるよう労務管理を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の技能に差があることを踏まえながら、施設内外の研修参加等を促し、スキル向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修活動等を通じ、同業者間の連携を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	密に話を聞く時間をつくり、不安に思っていることや、本人の要望の聞き取りを行っている。コミュニケーションを通じて言いたいことが言える関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と事務的な契約内容のみでなく、今までの経緯や意向について聞き取りを行い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時困っていることに対してできる範囲で対応をしている。またその時のニーズを正當に見極めることに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いをさせていただいたりと役割を持って生活していただき、一方的な介護されるという立場ではない関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がいつでも面会に来ていただけるようにしている。また、受診や外出等に協力もしていただいている。それらを通じ、職員と利用者のご家族の関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が面会に来てくれたりしています。その時は、次回もお越しいただけるよう声かけする等努めています。	利用者の自宅において家族が行うオープンガーデンに、他の利用者と一緒に出席、近所の人たちとの交流を図る、またかつての仕事仲間がホームに利用者を訪ねてくる等、利用者が個別に関わっていたホーム利用前の事柄や人へ柔軟に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置やレクリエーション等を通じ、関係性を観察し、お互いの気持ちに即して利用者同士が関わりあえるように環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談していただいたり、立ち寄っていただける関係の継続に努めている。本人の経過を見に行ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「その人を知り望む生活を支える」という理念に基づき、本人の思いや意向の把握に努めている。	表情・行動など日頃の様子や新聞を読んでいる発する言葉、また利用者同士の何気ない会話から、それぞれの利用者が抱いている思いや考えを把握するよう努めている。意思疎通が困難な利用者には、家族から過去の様子を中心とした話(情報)を聞いて、現在の行動と結び付けるように努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活環境等を本人やご家族からできるだけ聞き取りを行い、情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を通じ、各利用者の現状の把握とその情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録やミーティングを通じ、利用者の情報の共有を図り、その人らしい生活に即したケアが行えるようケアプランを作成している。	管理者、介護支援専門員、現場責任者でカンファレンスを行い、介護計画を作成している。コピーした計画書は記録用紙に綴り、職員が情報を共有できるよう図っている。ケース記録を用いて、個々の職員がモニタリングを実施している。	ケースカンファレンス等日頃介護に従事する職員が参加する話し合いの場を設けて、実態に応じた介護計画の作成及びさらなる介護計画の共有を図ることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子が把握できるよう介護記録を工夫し、情報の共有に努めている。ケア日誌を別に記録し、各職員の気づきを共有できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	あまり取組めていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握や活用にあまり取り組めていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くは協力医をかかりつけ医として受診しているが、これまでのかかりつけ医を受診している方もいる。各かかりつけ医と連携を図り健康管理を行っている。	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。希望のかかりつけ医や眼科への受診は、基本的には家族同行となっている。認知症専門医への受診は、家族同行で職員が対応している。訪問歯科と2週間に1回の協力医の訪問診療で、健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内の非常勤看護師と連携を図り健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各医療機関のソーシャルワーカーと密に連携しており、また、緊急時以外の連携も強化している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けご家族の意向を確認し、事業所としてできること、できないことを踏まえ相談しながら行っている。	家族に書面で同意をいただき、協力医との連携で終末期の対応を行っている。職員はターミナルケア研修に参加して、知識・技能を研鑽している。また、実践を通じて更なるサービスの向上につなげるため、看取り後はミーティングを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命の講習を実施し、受講した職員を配置している。救急搬送時のマニュアルを作成し活用している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については消防署立ち合いにて年2回の避難訓練を行っている。地震・水害については避難場所の確認、周知を行っており、消防署より、早急に連絡がくるようになっている。地域との協力については実現できていない。	夜間を想定した訓練を含めて、年2回、消防署立ち合いで避難訓練を行っている。ホームの立地上、また地域の地形上心配される水害対策については、利用者の特質上、指定された避難場所では距離があるなどの課題があるため、今後、近隣の事業所と避難のあり方について検討していきたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては、本人の性格傾向等に配慮し行っている。個人情報に関しては、記録を安易に見えない所へ保管して対応している。	利用者への個別的な対応、また理念に掲げているように、その人を知り、尊厳ある声かけや対応を心掛けている。具体的には、呼称について実践場面を通じて、管理者から各職員へ指導を行っている。個人情報の管理は、利用者や部外者から見えないようカウンターの位置や高さを工夫し保管、記録している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思決定をしていけるような環境作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り本人の希望に沿った生活の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者によつての差はあるが、その人らしい身だしなみができるよう環境を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる範囲で、本人の好みに合わせての食事の提供をしている。職員と一緒に食事をとったり、片づけ等一緒に行ってもらっている。	調理は職員が行っているが、献立と食材調達は専門業者に委託している。利用者の日常生活動作(ADL)の低下に伴い、かつてのように一緒に食事の準備をすることは難しくなっているが、食器拭きは一緒に行う等、今できることをお願いして取り組んでもらっている。時期には、事業所の庭で夏野菜づくりを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医、非常勤看護師と連携し、栄養と水分の確保について本人にとって最良であるよう支援している。食事・水分量は記録を取っている。毎月体重測定も実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。義歯がある方は夜間帯預かり洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を活用し、排泄のパターンやタイミングを見つけ、パット交換やトイレ誘導を行うことで失敗やおむつの使用を減らせる環境づくりに努めている。	排泄チェック表から排泄のタイミングを把握して、トイレでの排泄を支援している。日頃、顔の表情、落ち着かない様子などから、排泄の気配を察知して誘導している。トイレの扉は必ず閉めて使用するなど、自尊心への配慮を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や乳製品等の補助食品を利用したり、腹圧をかける体操等を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の安全と職員の安全な仕事環境に配慮した中で、できる限り本人らしい入浴ができるように努めている。	週3回入浴し、同性介助を基本としている。入浴を拒否する場合は、無理強いをしない。その人のタイミングを見計らって、声かけを行っている。毎日、入浴希望がある場合は、希望通り入浴をしていただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに配慮し、休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情については、職員全員が確認できる場所に保管しており、各職員の把握を促しているが、詳細な理解はできていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる範囲で、その人の生きてきた背景に配慮し、必要があればご家族に相談したりしながら用意できるよう努めている。レクリエーションや外出を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる範囲で外出の支援を行っているが、不十分なことも多い。	花見など外出を行っているが、事業所の庭での日向ぼっこや家庭菜園を利用して、さらなる外出へと発展できるよう検討している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使える環境はあるが、容易に使える環境は提供できていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	容易にできる環境とはいえない。しかしご家族と相談し必要に応じ支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけを行っている。現状の住環境の中でできるだけ混乱しないような環境作りを行っている。	ホールにはバリアフリーの畳コーナーがあり、低床ソファを置いてくつろげるよう工夫がしてある。利用者がテレビを見やすいように、ソファの向きを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫し、工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持参してもらい使用したり、物の配置等を工夫し配慮している。	家具、写真、好きな旅行雑誌やゴルフ雑誌、思い出のトロフィーなどを持ち込んで、居心地よく過ごせるよう配慮されている。背もたれ付きの椅子なども置かれて、リラックスできるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の持っている力が使えるよう配慮した環境づくりを行っている。		